

1. 子どもとその家族が健康で暮らせる環境づくりを

開成町では、第五次総合計画第3章に「健康を育み町民がいきいきと暮らせるまち」を掲げ推進している。その環境づくりのためには、教育と医療費の課題があると考えられる。

がんは、日本人の2人にひとりが罹る病気である。医療の進歩に伴い、治療が難しい病気から、長く付き合う病気へと変化している時代である。また、検診などによる早期発見は治療に有効であることも検証されている。

国は、昨年12月に成立した改正がん対策基本法で、学校や社会でのがん教育の推進を決定し、さらに文部科学省は本年度から「がん教育」の全国展開に向けて、3年間に渡るモデル校でのがん教育の授業実施や外部講師登用のためのガイドラインを策定するなど体制づくりを進めてきている。

子どもへの「がん教育」は、本人は勿論、保護者を始め家族へのがん検診の推進や健康づくりなどにつながります。また、生命の尊さを家庭でも見つめる機会になると考えます。

次の項目について伺う。

- ① 「がん教育」における本町の具体的な方策は。
- ② がん検診率の向上に対する今後の目標及び具体的な展開は。
- ③ 小児医療費助成制度の適用範囲を中学3年生までに拡大することは必須と考えるが。